

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局 名	北海道
-----	-----

都道府県名	北海道	関係市町村名	と ころ ぐんくねつ ぶ ちよう 常呂郡訓子府 町
事 業 名	畑地帯総合整備事業	地 区 名	くねつ ぶ とう ぶ 訓子府東部
事業主体名	北海道	事業完了年度	平成23年度

〔事業内容〕

事業目的： 本地区は、北海道北見市の南西部に広がる畑作地帯であり、小麦、ばれいしょ、てんさい、たまねぎを中心に営農が展開されている。

地区内の基盤整備は、農地や基幹排水など総合的な整備が行われてきたものの、粘性土壌が広く分布していることから排水性の悪いほ場が存在しており、湿害等による収量の減少、は種や防除・収穫の適期作業に支障をきたしていた。

このため、本事業による暗渠排水や土層改良等により、大型農業機械による農作業の効率化や農業生産性の向上を図り、農業経営の安定に資する。

受益面積：923ha

受益者数：140人

主要工事：暗渠排水631ha、土層改良429ha、農用地造成91ha、区画整理63ha、農業用排水施設（排水路）0.4km、農地保全（排水路）4ha

総事業費：2,415百万円

工 期：平成17年度～平成23年度
（計画変更：平成23年度）

関連事業：なし

〔項 目〕

1 社会経済情勢の変化

（1）社会情勢の変化

本地域の総人口について、平成17年と平成27年を比較すると15%減少し、北海道全体の減少率4%を上回っている。

【人口、世帯数】

区分	平成17年	平成27年	増減率
総人口	5,981人	5,100人	△15%
総世帯数	2,039戸	1,910戸	△6%

（出典：国勢調査）

産業別就業人口については、第1次産業の割合が平成17年の38%から平成27年の39%とほぼ横ばいで推移しており、平成27年の北海道全体の割合7%を上回っている。

【産業別就業人口】

区分	平成17年		平成27年	
		割合		割合
第1次産業	1,230人	38%	1,051人	39%
第2次産業	515人	16%	364人	14%
第3次産業	1,504人	46%	1,260人	47%

（出典：国勢調査）

（2）地域農業の動向

平成17年と平成27年を比較すると、経営耕地面積については1%、農家戸数、農業就業人口は20%減少しており、65歳以上の農業就業人口も55%減少している。

また、認定農業者数も平成27年度時点で296人となり12%減少しているが、一方で農家一

戸当たりの経営面積は25%増加している。

区分	平成17年	平成27年	増減率
耕地面積	6,531ha	6,495ha	△1%
農家戸数	391戸	312戸	△20%
農業就業人口	1,232人	983人	△20%
うち65歳以上	322人	146人	△55%
戸当たり経営面積	16.7ha/戸	20.8ha/戸	25%
認定農業者数	335人	296人	△12%

(出典：農林業センサス、認定農業者数は北海道調べ)

2 事業により整備された施設の管理状況

本事業により整備された排水路は、訓子府町により定期的に草刈り、土砂上げ等をおこなうなど、適切に管理されている。

3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(1) 農作物の生産量の変化

暗渠排水や土層改良等の基盤整備によるほ場条件向上や営農技術の確立等により、高収益作物であるたまねぎへの作付転換が図られたことから、たまねぎの作付面積は、事業実施前の1.7倍、生産額は2.3倍に増加するとともに、新たに小豆が栽培されている。

この他、青刈りとうもろこしは、輸入飼料の高騰やほ場条件の向上から作付面積が増加している。

【作付面積】

(単位：ha)

区分	事業計画（平成23年）		評価時点 (平成28年)
	現況 (平成16年)	計画	
水稻	38.5	9.7	20.3
小麦	194.0	201.1	196.7
ばれいしょ	226.4	234.9	167.2
てんさい	218.4	226.6	177.3
たまねぎ	115.3	119.7	197.7
牧草	93.3	96.8	83.1
青刈りとうもろこし	33.4	34.7	61.9
小豆	0.0	0.0	19.4

(出典：事業計画書（最終計画）、JAきたみらい聞き取り)

【生産量】

(単位：t)

区分	事業計画（平成23年）		評価時点 (平成28年)
	現況 (平成16年)	計画	
水稻	153	36	81
小麦	822	1,102	1,057
ばれいしょ	8,662	11,800	8,228
てんさい	12,680	17,274	13,239
たまねぎ	6,897	9,403	15,191
牧草	3,086	4,178	3,492
青刈りとうもろこし	1,929	2,590	4,534
小豆	0	0	57

(出典：事業計画書（最終計画）、JAきたみらい聞き取り)

【生産額】

(単位：百万円)

区分	事業計画（平成23年）		評価時点 (平成28年)
	現況 (平成16年)	計画	
水稻	28	7	15
小麦	129	173	172

はれいしょ	598	814	592
てんさい	216	294	238
たまねぎ	467	640	1,079
牧草	65	88	77
青刈りとうもろこし	66	88	158
小豆	0	0	19

(出典：事業計画書(最終計画)、ＪＡきたみらい聞き取り)

(2) 営農経費の節減

本事業の実施によって排水改良や勾配修正及が図られたことにより、大型農業機械による農作業が効率化され、事業実施前と比べ農作業に係る労働時間等が節減しているが、たまねぎ及びてんさいについては移植の際に定着を促すため、より丁寧に碎土・整地等の作業を行っており、相対的に節減率が小さくなっている。

【労働時間】

(単位：hr/ha)

区分	事業計画（平成23年）		評価時点 (平成28年)
	現況 (平成16年)	計画	
水稻	158	115	92
小麦	19	15	13
はれいしょ	149	123	113
てんさい	112	103	108
たまねぎ	241	232	228
牧草	23	19	13
青刈りとうもろこし	20	17	10

(出典：事業計画書(最終計画)、ＪＡきたみらい聞き取り)

【機械経費】

(単位：千円/ha)

区分	事業計画（平成23年）		評価時点 (平成28年)
	現況 (平成16年)	計画	
水稻	837	453	308
小麦	370	271	239
はれいしょ	665	521	491
てんさい	440	317	363
たまねぎ	866	730	856
牧草	176	144	103
青刈りとうもろこし	174	138	97

(出典：事業計画書(最終計画)、ＪＡきたみらい聞き取り)

4 事業効果の発現状況

(1) 事業の目的に関する事項

① 農業生産性の向上

本事業による暗渠排水等の排水改良により、ほ場の排水性が向上し湿害が防止されるとともに、客土等の土層改良により、土壌の物理性が改善されたことから、作物の適正な生育が可能となり、全ての作物において事業実施前に比べ単収が増加し、農業生産性の向上が図られている。

【単収】

(単位：kg/10a)

区分	事業計画（平成23年）		評価時点 (平成28年)
	現況 (平成16年)	計画	
水稻	397	371	399
小麦	424	548	537
はれいしょ	3,826	5,023	4,921
てんさい	5,806	7,623	7,467
たまねぎ	5,982	7,855	7,684

牧草	3,308	4,316	4,202
青刈りとうもろこし	5,775	7,464	7,325

(出典:事業計画書(最終計画)、J Aきたみらい聞き取り)

(2) 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

① 担い手の体質強化

本事業による農業生産基盤の整備に伴い、地区内の担い手(認定農業者、農業生産法人)が育成されており、受益者の全てが認定農業者となっているとともに、全ての農地も担い手に集積されている。

【担い手の育成状況】

(単位:人、組織)

区分	事業計画(平成23年)		評価時点 (平成28年)
	現況 (平成16年)	計画	
認定農業者	112	112	120
農業生産法人	1	1	7

(出典:訓子府町聞き取り)

【担い手への農地集積】

(単位:ha、%)

区分	事業計画(平成23年)		評価時点 (平成28年)
	現況 (平成16年)	計画	
農地集積面積	789.4	923.3	923.3
農地集積率	81.6	100.0	100.0

(出典:訓子府町聞き取り)

② 産地収益力の向上

暗渠排水・客土等により、たまねぎや小豆などの高収益作物への作付転換(作付面積割合13%→24%(11ポイント増))が図られたことから、生産額は467百万円から1,098百万円(135%増)に増加している。

③ 農村協働力と美しい農村の再生・創造

平成26年度より、多面的機能支払い交付金を活用し組織された「訓子府町広域環境資源保全会広域協定運営委員会」が地区内の農道や農業用排水路の維持管理を行うなど、地域ぐるみの共同活動が活発化している。

(3) 事業による波及効果等

① 環境保全型農業の取組

本事業により農作業の省力化が図られたことから、訓子府町玉葱振興会減農薬研究会においては、減農薬やJ A S 認定など、更なる高付加価値化に向けた作物栽培に取り組んでいる。

また、町内のエコファーマーが平成19年度の26名から平成28年度には113名(町内農家の36%)と大幅に増加しており、環境保全型農業の取組が推進されている。

② 6次産業化の取組と雇用の創出

訓子府町を含む北見地域は全国的なたまねぎ産地であり、地区内で生産されたたまねぎは、農産物加工会社[(株)グリーنز北見(北見市)]において業務用食材を中心に、オニオンスープやコロケ(たまコロ)などの製品に加工し、全国に出荷している。

また、加工品の製造には139名(常勤114名、パート25名)の従業員が雇用されており、6次産業化の取組により、農産物の付加価値化が図られているとともに、加工を中心に雇用が創出されており、地域の活性化に寄与している。

(4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果

総便益 20,243百万円

総費用 4,164百万円

総費用総便益比 4.86

(注)総費用総便益比方式により算定。

5 事業実施による環境の変化

(1) 自然環境

排水路において、ウグイ・ドジョウの生息が確認されたことから、工事の実施に際して汚濁水が下流に流出しないよう、土のう等で仮回し水路を設置するとともに、余裕のある工事計画により降雨時の施工を回避する等の配慮を行った。また、事業実施後には、目視にてウグイ・ドジョウの生息を確認している。

6 今後の課題等

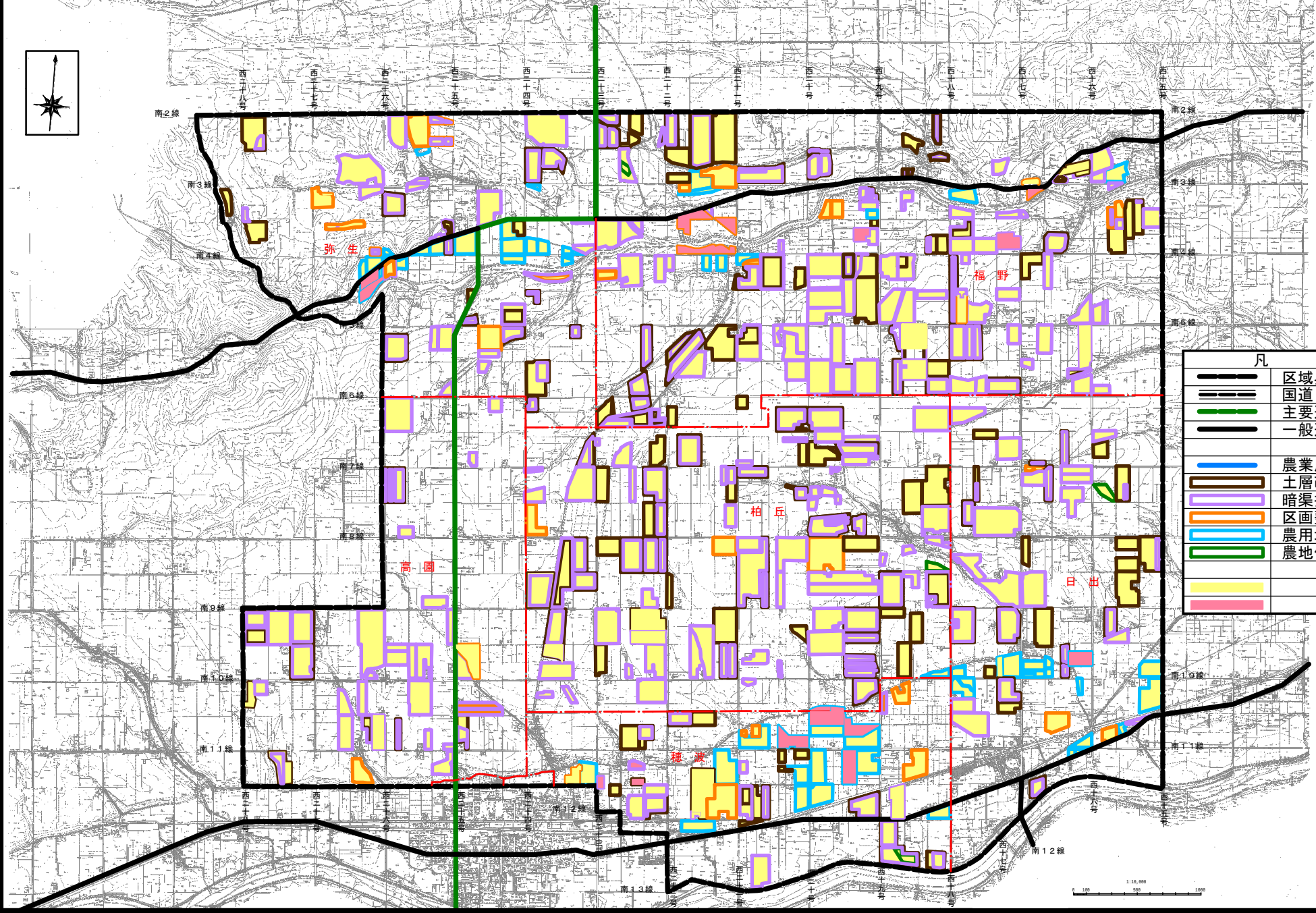
地区の課題であった農地の排水不良が改善され、農業生産性が向上するとともに、担い手への集積が進んでいる。

今後は、農業者の減少や高齢化が想定されるため、継続して農地の集積・集約に取り組み、担い手の経営規模の拡大を図るとともに、農業所得向上のため、高収益作物の主力であるたまねぎの更なる高付加価値化・均一化にも取り組んでいく必要がある。

また、近年の集中豪雨等の気象条件の変動により農業生産を巡る環境は厳しくなっているため、暗渠排水等の維持管理を適切に行い、農業生産性の維持向上を図るとともに、安定的な農業経営の確立を図る必要がある。

事後評価結果	本事業の実施によるほ場の排水不良、並びに作物の生育阻害の要因となっている土壌環境の改善により、大型農業機械による農作業の効率化が図られるとともに、たまねぎ等の高収益作物の作付面積や作物の単収が増加するなど、農業生産性が向上している。 また、担い手の育成及び農地集積を進めた結果、受益者の全てが認定農業者となるとともに、これらの担い手に全ての農地が集積されており、地域農業の改善が図られている。 このほか、地区内で生産されたたまねぎをオニオンスープ等に加工する農産物加工会社においては、雇用が創出され、地域の活性化に寄与している。 今後は、農業者の減少や高齢化が想定されるため、継続して農地の集積・集約に取り組み、担い手への経営規模の拡大を図るとともに、高収益作物の主力であるたまねぎについては、減農薬やJAS認定などの更なる高付加価値化に取り組むほか、定期的に耕盤破碎を実施し土壌の排水性を高めるなど、品質の均一化に向けた作物栽培にも取り組んでいく必要がある。 また、近年の集中豪雨等の気象条件の変動により農業生産を巡る環境は厳しくなっているため、暗渠排水等の維持管理を適切に行い、農業生産性の維持向上を図るとともに、安定的な農業経営の確立を図る必要がある。
第三者の意見	ほ場の排水改良や土壌環境の改善により、農作業の効率化や農業生産性の向上が図られるとともに、認定農業者となった全ての受益者に農地が集積され、経営規模が拡大するなど、事業効果の発現が認められる。 本地区を含む北見地域は全国でも有数のタマネギ産地であり、地域で生産したタマネギは地元の農産物加工会社においてオニオンスープ等に加工されるなど、高付加価値化が図られている。また、雇用の創出にもつながっており、地域の活性化に寄与している。 今後は、担い手の経営規模の更なる拡大を図りつつ、高収益作物の主力であるタマネギの高付加価値化や品質向上の取組を進めることにより、更なる農業所得の向上と地域経済の活性化を図ることが望まれる。

畑地帯総合整備事業 訓子府東部地区 概要図



凡 例	
	区域界
	国道
	主要道道
	一般道道
	農業用排水路
	土層改良区域
	暗渠排水区域
	区画整理区域
	農用地造成区域
	農地保全区域
	畑
	田

1:10,000